

令和7年度 事業報告書

I 保存普及事業

(1) 鉄道遺産等普及事業

明治26年(1893)横川～軽井沢間に官設鉄道が開通して以来育まれてきた鉄道文化遺産は、めがね橋や旧丸山変電所などの重要文化財だけではなく、ED42やEF63等の電気機関車、レンガ造のトンネルや橋梁が当該地域には数多く残されている。

特に急勾配の横川～軽井沢間だけを運行していたEF63形電気機関車は碓氷峠鉄道文化むらに4両動態保存されており、全国から鉄道ファンが運転体験に訪れている。また、全国から集めた数多くの貴重な鉄道車両が展示されており、これらをあわせて後世に伝える保存活動を続けていくことが重要である。

①EF63運転体験事業

☆学科・実技講習 毎月第3土曜日に実施。

「12回実施 60名(内女性2名)」

☆検定合格者に講習修了証交付後、指導機関士による保存運転線区間往復
約800mの実車運転体験。

☆運転体験 1日最大11名「313日実施 延べ 3,112名」

②展示車両の保存活動

☆屋外展示車両保存整備

- ・業者による塗装修繕 EF70 1001号機・キニ58 1号機
- ・一般ボランティアによるEF59 1号機塗装等作業
- ・JR高崎支社、鉄道OB会によるEF80 63号機塗装作業
- ・JR東日本のツアー参加者によるEF63 1号機塗装作業
- ・登録ボランティアによる清掃、洗浄、軽微な塗装作業等(月1回)
- ・職員による塗装、車内補修作業

③EF63形電気機関車4両の点検整備

☆動態保存機のため、職員による点検整備を行った。

(2) 情報発信事業

①碓氷峠を紹介する資料の発行・販売

歴史と自然の豊かな碓氷峠を広く紹介するための資料とするとともに碓氷峠(アプトの道)を散策するガイドブックとしても役立つ案内及び説明資料の発行を行った。

「碓氷線絵地図」B5版16ページ 「20冊配布」

②碓氷峠鉄道文化むらをより楽しんでいただく為、碓氷線の歴史と展示車両を紹介した冊子の販売

・展示車両BOOK

碓氷峠鉄道文化むらの展示車両やジオラマの車輛を詳しく紹介した冊子の作成。小学生以下がターゲットで、自分で記入する欄や記念スタンプを押すスペースを設けた。

「222冊販売」

・碓氷峠鉄道文化むら「たんけんノート」

碓氷峠鉄道文化むらの案内図と碓氷線の歴史をわかりやすく解説した冊子で、小学生の自由研究ノートとして活用できる。「23冊販売・728冊配布」

③ホームページやSNSによる情報提供

前年に引続きホームページやSNSを利用し、碓氷峠鉄道文化むらやイベント等の情報を提供した。

(3) 交 流 事 業

①第27回碓氷峠紅葉の俳句大会の開催

碓氷峠は古来より、紅葉の美しさでも知られ、唱歌「もみじ」の作詞の場でもある。その峠の四季の美しさを俳句で表現することにより、峠の自然並びに歴史などについて理解を深めてもらう。

俳句大会実施日 11月3日 ※応募句のみの審査

応募句総数 113名 215句

②冬期ふれあいイベントの開催

碓氷峠の森公園を会場にイルミネーションを点灯し地域住民及び施設利用者等のふれあいの場を提供した。

開催期間 11月22日(土)～1月25日(日)

③碓氷峠等に関連する各種事業への協力

関係機関等で実施する碓氷峠等に関わる諸事業に協力した。

○第51回安政遠足

○第62回碓氷関所まつり

○熊野神社春季例大祭

○第29回碓氷路交通殉難者慰霊祭

○モントレラリー2025

○旧中山道ウォーキング2025

○白鬚神社秋祭り

○碓氷峠Maple ヒルクライム2025

○DOMANNAKA2026

④矢の沢川親水公園管理事業

☆ 草刈り・ゴミ拾い等の清掃を6回実施。

Ⅱ 公共施設の管理運営事業

(1) 碓氷峠鉄道文化むら管理運営事業

①「資料館・展示館・屋外展示場及び付帯施設等」の適切な管理運営の実施。

- ☆ 展示車両及び展示資料などの適切な管理運営の実施。
- ☆ 園内施設及び設備等の点検修理。
- ☆ 園内及び駐車場・バス等乗務員休憩室の清掃（毎日）等の実施。

②トロッコ列車「シェルパくん」の運行管理事業

鉄道文化むらからとうげのゆ駅間に園内遊具としてトロッコ列車を運行し、両施設利用及び碓氷峠周辺の観光の促進を図る。

- ☆土曜日・日曜日・祝日に1日5往復の運行。但し、春休み・夏休み・ゴールデンウィーク期間は毎日運行

「170日 1, 634便運行 40, 575名乗車」

③2フィート蒸気機関車・DL機関車「あふとくん」の運行管理事業

- ☆ 1日13回の運行（午前6回・午後7回）

④ミニSL・ファミリー列車の運行管理業務

- ☆ミニSL【午前9時より10分間隔で毎日運行

（12時10分～13時10分の間は除く）】

- ☆ファミリー列車【ミニSL運行線を使い土曜日・日曜日・祝日の12時10分～

13時10分の間には運行を行う。】 但し、繁忙期間は毎日運行

⑤碓氷峠鉄道文化むらファンクラブ「友の会」の運営

ファンクラブ有効会員数（令和8年3月31日現在） 287名

会報誌の発行 4月・7月・10月・1月の4回発行

⑥碓氷峠鉄道文化むらサポーターズ制度（寄附金）

碓氷峠の鉄道の歴史等(EF63形電気機関車の動態保存・旧信越線の線路、展示車両等)を永く残し、伝えていくための支援を要請した。

総額 380,000円（個人3名・団体1）

⑦EF63形電機機関車シミュレーター管理・運営

春期は桜が咲いた景色、秋期は紅葉の景色、冬期は雪景色にするプログラム変更を実施。

**(2) 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第三十四条第二項の一に基づく
附属明細書（事業報告の内容を補足する重要な事項）**

- ①碓氷峠の森公園の管理運営に関する基本協定書に基づき、指定管理料として安中市より財団に 82,685,000 円が支払われた。
- ②令和 2 年に日本政策金融公庫より、新型コロナウイルス感染症特別貸付として、無担保で長期借入金 30,000,000 円を借入れた。令和 7 年 11 月から元本の返済が始まり、合計 1,185,000 円返済した。また利息として 399,612 円を経常外費用として処理計上した。
- ③令和 8 年 1 月に、群馬県信用組合から運転資金として 20,000,000 円の借入を行い、令和 8 年 3 月に全額返済した。借入の利息 36,987 円を経常外費用として処理計上した。
- ④当事業年度末において、基本財産に対する一般正味財産からの充当額が 24,552,177 円不足しているが、年度末で未払い金が一時的に多いことと、基本財産を増額したための不足である。なお、法人全体の純資産総額は 52,981,002 円であり、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 130 条に規定する額（300 万円）は維持されている。今後は碓氷峠鉄道文化むらの事業収入を増やし、財政状態の改善と基本財産充当額の確保に努めていきたい。